

**「現場では会社の壁を越えて技術者は仲間。これからも学びは続く」**

**(株)井木組** (東伯郡琴浦町)

いしわき まさひろ

**石脇 正浩さん** (30才)

< 2級建築士、1級建築施工管理技士 >

鳥取市出身。大学(大阪府)で建築を学び、(株)井木組に就職して8年目になります。同期入社は5名、入社した頃はよく焼き肉を食べに行っていて、仕事の話をしていました。最近ではみんな忙しくなって、会う機会が少なくなりましたが、5人とも(株)井木組で働いているので心強いです。

建築の道に進んだきっかけは、小学生の頃、家族旅行で初めて見た大阪の高層ビル群のカッコよさに感銘を受けたことです。

今でも、その気持ちに変わりなく、時々高層ビルを見に出掛けます。

一番好きなビルは、空中庭園で有名な「梅田スカイビル」です。

入社、1～2年の頃は、上司の指示を職人へ伝えるお使いのような立場で自信がなく、不安な時期でした。その頃は正直なところ仕事を辞めたいとも思っていました。

しかし、3年目あたりから、上司が自分に仕事を任せてくれるようになりました。

そのころから、やらされている感覚から「自分1人でやるんだ」と気持ちが前向きになり、充実感が持てるようになりました。

今でも自分で段取りしたことが、現場で一つ一つ完成していく様子が嬉しいです。

建築現場は、他社の技術者と一緒に仕事をすることがあります。現場事務所では一つの会社のような感覚で働いていますし、技術者同士、助け合って学んでいます。

入職を考えている人は、まず思い切って就職して欲しい。現場で働きながら、やりがいが見つかって行くはずだと思います。

次の(第4回)リレーインタビュー本庄建設(株) 伊藤 穰さん